

OTC 医薬品分科会創設記念シンポジウム開催

～2024年5月26日(日)報道関係者に公開～

日本 OTC 医薬品協会（会長：杉本 雅史、以下 OTC 薬協）ではこれまでも国民の多様なセルフケア・セルフメディケーションのニーズに応えるべく OTC 医薬品・検査薬等の範囲拡大を目指して活動を行って参りました。

一方で、セルフメディケーションの推進や OTC 医薬品・検査薬等の範囲拡大には多くの課題もある中で、アカデミアと企業が集まり学術的な議論を行う場がなく、また、研究を行う環境整備も不十分であるために、医学薬学的、社会科学的なエビデンスやリアルワールドデータ等に基づいた科学的根拠をもった課題対策や政策等の提言を十分に行えていないという問題もあります。

この度、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会（以下、本学会）が学会内に OTC 医薬品分科会（以下、本分科会）を立ち上げました。本分科会は、OTC 医薬品・検査薬等の普及を促進すべく、アカデミアの立場から OTC 医薬品・検査薬等の開発、承認、流通、価格、品質、政策等の多岐にわたって現状と課題を明らかにし、調査・研究等を行うことを目的としております。

OTC 薬協は本分科会の趣旨に賛同し、活動に協力することとし、本年2月には協会内に OTC 研究・学術活動 PJ を発足し、本分科会の活動を支援してまいりました。

以上の背景から、今回、以下学会のプレスリリースを OTC 薬協から配信させていただきます。是非、本学会において頂き、取材頂ければとお願い致します。

取材の為の学会参加は無料です。取材の為の学会参加については、学会運営事務局 E-mail (jsgsm18@c-bind.jp) へご連絡頂き、当日は名刺をお持ち下さい。

【OTC 医薬品分科会についての問い合わせ先】

広報担当 木田・湯浅

電話：(03)5823-4971（代表）メール：press@jsmi.jp

報道関係 各位

**OTC 医薬品分科会を新設
名古屋国際会議場で記念シンポジウム開催**
★2024年5月26日（日）報道関係者に公開★

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会（代表理事 武藤正樹）は、2024年5月25日（土）～26日（日）に名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町1-1）にて第18回学術大会を開催いたします。

学術大会では、日本で初めて OTC 医薬品を学術的に研究、検討することを企図して、新設した「OTC 医薬品分科会（分科会長 武藤正樹、分科会長代理 岩月進）」による記念シンポジウムを2024年5月26日（日）に午前第二会場・午後第一会場にて開催いたします。

シンポジウムの内容は下記となります。今回のシンポジウムは、報道関係者の皆さまに公開とさせていただきますので、ぜひご参加くださいますようお願いを申し上げます。

【OTC 医薬品分科会記念シンポジウムの内容】

第一部：テーマ：OTC 医薬品分科会創設の意義と新たな OTC 医薬品の開発・提供・普及促進に向けて（9:15～11:10 第二会場）

座長：磯部総一郎（日本 OTC 医薬品協会理事長）

演者：武藤正樹（分科会長、社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ理事）

「OTC 医薬品分科会設立の目的と意義」

中井清人（厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課長）

「行政からみた期待される OTC 医薬品」

幸野庄司（健康保険組合連合会 参与）

「健康保険の現状から OTC 医薬品を含む

セルフメディケーションの拡大について」

五十嵐中（横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット 准教授）

「セルフメディケーションの医療経済学的価値（スイッチ

OTC の医療経済学的意義）及び、海外における OTC 医薬

品の使用視点から OTC 医薬品、セルフケア・セルフメディ

ケーションの推進」

川瀬一朗（日本 OTC 医薬品協会 OTC 研究・学術活動 PJ サブリーダー、
エスエス製薬株式会社）

Press Release

「スイッチ OTC 医薬品の開発」

第二部：テーマ：セルフメディケーションの将来像（14:20～15:50 第一会場）

座長：泉澤勝弘（日本 OTC 医薬品協会 OTC 研究・学術活動 PJ リーダー、
アリナミン製薬株式会社、明治薬科大学理事）

演者：尾崎治夫（公益社団法人東京都医師会会長）

「わが国におけるセルフケア・セルフメディケーションの重要性と将来像」

岩月進（公益社団法人日本薬剤師会常務理事、一般社団法人愛知県薬剤師会会長）

「今後のセルフメディケーションと薬剤師」

川庄尚（日本 OTC 医薬品協会 OTC 医薬品情報提供サイト構築 PJ リーダー、
佐藤製薬株式会社取締役学術部長）

「OTC 医薬品のデータベースについて」

本田麻由美（読売新聞東京本社編集委員、国立がん研究センター理事）

「消費者の立場から OTC の使用、有効活用を進めるには」

OTC 医薬品は政府が進めるセルフケア・セルフメディケーション政策の中でもその普及推進が課題となっており、大きな課題のひとつはスイッチ OTC ラグ（スイッチラグ）にあると考えます。また、今後の働き世代減少社会の中では、医療提供体制の確保や国民皆保険の維持に関しても、大変厳しい時代を迎えつつあるかと思えます。このような状況下では、これまでの急性疾患対応薬のみならず生活習慣病を含めた慢性疾患治療薬や検査薬についても、OTC 医薬品・検査薬等を提供し、地域医療の中でどのように適切に活用していくかが大事になってくると思えます。

また、医療用医薬品として日本で薬事承認を取得していても、個人輸入を行い、偽造薬が紛れ込む事例も起こっており、このような医薬品の患者アクセスをどう確保するかも課題があります。

また一方で、OTC 医薬品のオーバードーズ（濫用）問題、品質不良による回収事例なども発生しています。さらには OTC 医薬品の有効成分のコード化やそのデータベースが十分整備されていないことから、医療用医薬品と OTC 医薬品の重複投与や飲み合わせの確認が容易に行いにくいという課題もございます。

これまでは、以上に述べた課題における関係者による議論の場がなく、アカデミアにおいて OTC 医薬品・検査薬等の研究を行う人材も少なく、日本における OTC 医薬品・検査薬等に関する医学薬学的、社会科学的なエビデンスの集積、使用実態も含めたリアルワールドでの情報収集は限られていました。

日本の医療の課題に即した OTC 医薬品・検査薬等の範囲や活用方法を議論する学術研究の場や政策提言の場がなかったことから、OTC 医薬品・検査薬等の健全な普及拡大を目的とし、将来的な OTC 医薬品の学会立ち上げを目指す為の準備として「OTC 医薬品分科会」を立上げることといたしました。

シンポジウムでは、OTC 医薬品の背景や健全な普及に向けた課題について、各界の第一人者が熱く語る予定であります。

Press Release

報道各社様におかれましては、上記について広く周知を頂けますと幸いです。

本件についてのお問い合わせ先

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
〒105-6237 東京都港区愛宕2丁目5番1号
愛宕グリーンヒルズ MORI タワー37階
(税理士法人 AKJ パートナース内)

担当 細川修平

TEL:03-3438-1073

MAIL : info@ge-academy.org